

1971年8月7日第3種郵便物認可(毎月6回)1の日・6の日

2011年12月3日発行SSKA増刊通巻第7443号

SSKA

全国パーキンソン病友の会会報

茨城県支部だより

2011年12月3日発行〔第87号〕



収穫《水戸市郊外》

全国パーキンソン病友の会茨城県支部

〒301-0856 : 茨城県龍ヶ崎市貝原塚町3552-6

TEL/FAX : 0297-64-3546

郵便振替口座 : 00300-4-38042

Eメール : yasuhisa.u@hb.tp1.jp

目 次

◎ 水戸パーキンソン病市民公開講座に参加して	3
◎ 第26回一泊患者・家族の交流会報告	5
・ 交流会の概要	5～8
・ 交流会に参加して（3件）	9～11
◎ パーキンソン病友の会茨城県支部県南地区交流会 （平成23年度第1回）報告	12
・ 平成23年度第1回県南地区交流会を終えて	12
・ 交流会に参加して（3件）	13～14
◎ 県央・県北地区合同交流会について	15
◎ みんなのひろば	17
・ お菓子のレシピ《ヨーグルトゼリー》	17
・ リハビリ入院について	18
◎ 誌上作品展	20
・ 作品（10点）	21～30
◎ 事務局からのお知らせ	34
◎ 編集後記	36

水戸パーキンソン病市民公開講座に参加して

茨城県支部長 植本 泰久

「水戸パーキンソン病市民公開講座」が10月22日に水戸プラザホテルで「全国パーキンソン病友の会茨城県支部」「ノバルティスファーマ株式会社」の共催、また水戸市、水戸市医師会の御後援により「水戸赤十字病院 副院長 小原克之先生」および「同病院神経内科部長 山口啓二先生」の講演で「パーキンソン病ってどんな病気？」というテーマでお話を頂きました。

パーキンソン病の症状から運動性の障害として震戦、筋肉の固縮、動作の緩慢および姿勢保持障害の四大症状と、医療、治療、薬について、また長期服薬による「不随意運動」や「オン・オフ」の問題、またこの病気による非運動障害について詳しく述べて頂きました。幻覚、幻視、幻聴、妄想等の問題、便秘、排尿の問題、よだれ、睡眠障害、立ちくらみ、パチンコなどへの特別な入れ込み、買い物障害などいろいろのことが起こるとの説明がありました。丁寧な説明でとてもよく理解ができました。

参加者は約80名(友の会会員20名含

む)と会場の定員を超える盛況でした。

この中で私は挨拶の時間を頂きましたので支部代表として、次のように友の会の組織として会員増への活動状況を述べましたので報告致します。

会の組織は全国の都道府県を一支部として、現在46支部から成り立っています。会員数は8,500名あまりです。これは多いようですが、潜在患者数は日本全体で15万人と推定されており人口の高齢化と共に年々増加しております。患者が増え続けることは残念ではありますが、これが実態です。

茨城県ではこの比率で試算しますと、県内人口は約300万人のなか患者数は約3,000人と推定され、その中で当会に入っている方は140名です。即ち20人に1人が会員であります。この数は、非常に少ないと思っています。

全国パーキンソン病友の会は、今回一般社団法人として認められた患者・家族および支えてくださる賛助会員からなる団体です。

これにより、社会的発言力、行政への対応等が今まで以上に強くアピールすることができるような体制になりました。

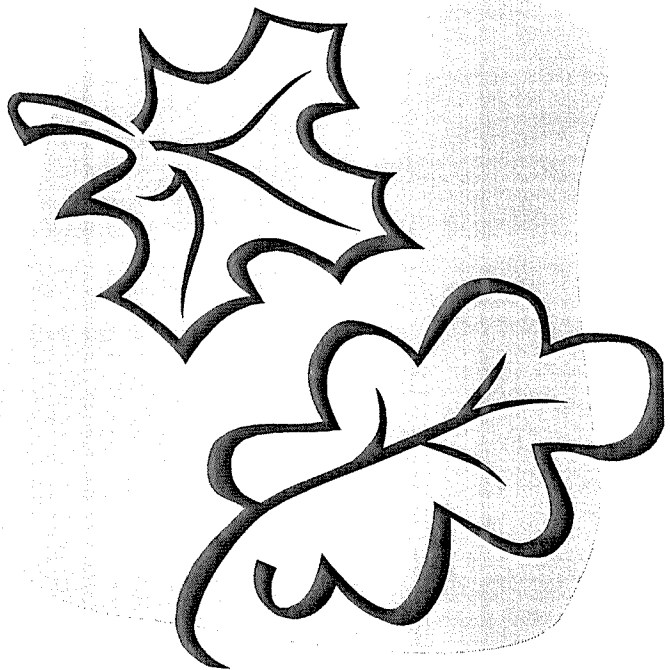
次は学習会であります。長い闘病生活を送らねばならないパーキンソン病のような慢性疾患において自分らしく人生を送るためには正しい知識が必要であります。薬の知識など医学の情報、生活に影響する福祉の情報、さらに同病の人たちとの意見交換をするなどが必要です。

具体的には先生方（お医者様方）

による講演会、患者・家族による体験談の発表などを年に数回行っています。

また役員にとっては、自分の体験だけではなく、広い知識と会員の方々の要求をしっかりと受けとめ有意義な活動をすることが必要であると考えています。

しかし会員数の少ないことは力になりませんので皆様のご協力をお願いし、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願い致します。



第26回一泊患者・家族の交流会報告

交流会の概要

水戸市

鹿志村 悟

◎期 日:平成23年10月23日(日)~24日(月)

◎場 所:大子町『余暇活用センター・やみぞ』

◎スケジュール

1日目《10月23日》		2日目《10月24日》	
10:00	送迎バス水戸駅南口出発	7:30	朝食
11:30	やみぞ集合	8:00~9:30	りんご狩り
12:00~	昼食	10:00	解散
13:00~16:00	交流会		送迎バスやみぞ出発
16:00~18:00	自由時間(リンゴ風呂入浴)		水戸駅南口へ
18:00~20:00	懇親会		
21:00~23:00	自由話し合い		

茨城県支部の恒例行事「一泊患者・家族の交流会（第26回）」が、上記の通り10月23日、24日の両日、大子町の「余暇活用センター・やみぞ」で行われた。

昨年の患者・家族交流会は、茨城県支部設立25周年を記念して、初めての貸し切り観光バスによる塩原・鬼怒川方面への旅行を行った。

大変好評で「今年も同じような旅

行」の声もあった。

しかし、今年の子行き先選定にあたっては“送迎バスがある県内施設”と言うこれまでの方針にもどり決められた。

今年の参加者は患者、家族合わせて31名で、特に初めての参加者が多く、久々に30名を超えたことは嬉しいことである。

紅葉には若干早かったが、交流会

と自由話し合いの2回にわたる熱心な討論、りんご風呂温泉と懇親会そしてリンゴ狩りと有意義かつ楽しい二日間であった。

以下に今回の交流会活動の概要を報告する。

1日目《10月23日(日)》

◎出発・集合・昼食

やみぞへは自家用車かやみぞの送迎バスを利用することとした。

やみぞの集合時間は11時30分、これに合わせて自家用車組は自宅から直接やみぞに向かった。送迎バス組17名は水戸駅南口に集合、10時に出発した。11時30分やみぞ到着、先着の自家用車組と合流、出席者全員が顔をそろえた。

受付が済み、時刻も12時を回ったところで全員で昼食をいただいた後一休み、午後の交流会を待った。

◎交流会(13時～16時)

本会のメインイベントである交流会(1回目の話し合い)が13時から植本支部長の挨拶に続き綿引副支部長の司会で始まった。

まず、今回の参加者31名(患者:18名、家族:13名)全員が順番

に自己紹介と近況報告を行った。初参加の方が多いのでお互いの名前と人となりを知るのにも役立った。

一巡したところで休憩。後半は自分の病状、悩んでいること、分からないことなど何でも話して貰い、皆んなで考える場である。

話題はいつもの事ながら薬に関することが一番で、次いで自身の病状のこと、そして医師に関すること等について予定の終了時間の16時まで熱心な話し合いが行われた。

◎自由時間(16時～18時)

16時～18時までは自由時間。

名物のりんご風呂温泉を満喫した方、ランドグラフを楽しんだ方など、皆さんそれぞれ有効に過ごされたようである。

◎懇親会(18時～20時)

18時からはお待ちかねの懇親会である。開会に先立ち全員で記念の集合写真を撮影した。

懇親会は植本支部長の挨拶、綿引副支部長の乾杯の音頭で始まった。会の進行は植本事務局長により進められた。

まず、鮎の塩焼きをはじめとする奥久慈料理と地酒、ビールでいい気

分になったところでカラオケが始まった。

さすがに皆さんのど自慢の方々だけに素晴らしい歌を聴かせていただいた。しかし、残念ながら時間が限られおり、エントリーした数人を残してカラオケを終了した。

後半はゲーム大会である。ゲーム大会は宮部役員の名リードにより進められた。まずは奥久慈みやげの豪華賞品が当たるビンゴゲームである。番号が読み上げられるたびに一喜一憂し、『ビンゴ』の声が出るたびに歓声が上がり、空くじなしの最後のビンゴが出るまで続いた。

次いでジャンケンゲーム（賞品は事務局長と若山会員からの寄付物品）で楽しんだ。これも『グウ・チョキ・パー』の声が出るたびに歓声とため息が上がった。

二つのゲームで宴は最高に盛り上がったところでお開きとなった

◎自由話し合い（21時～23時）

懇親会修了後、21時から植本支部長の部屋で2回目の話し合いを行った。この会は自由参加であるが、全役員を含め半数の方が参加した。

昼間の交流会とは違い、お酒も入り、よりうちとけた和やかな雰囲気

の中で、昼間の話し合いで言い足りなかったこと、聞き忘れたこと、そして新たな話題などが話し合われた。

2日目《10月24日(月)》

◎りんご狩り（8時～9時30分）

2日目は帰りの送迎バスの出発時間が10時のため、朝食後この間を利用してりんご狩りを行った。

朝食後、希望者のみ自家用車に申し8時にやみぞを出発、近くのりんご園へ行く。食べるばかりに用意された3種類のりんごを心いくまで味わった後、りんご林でりんご狩り沢山のみやげのりんごを買って9時30分にやみぞへ戻った。

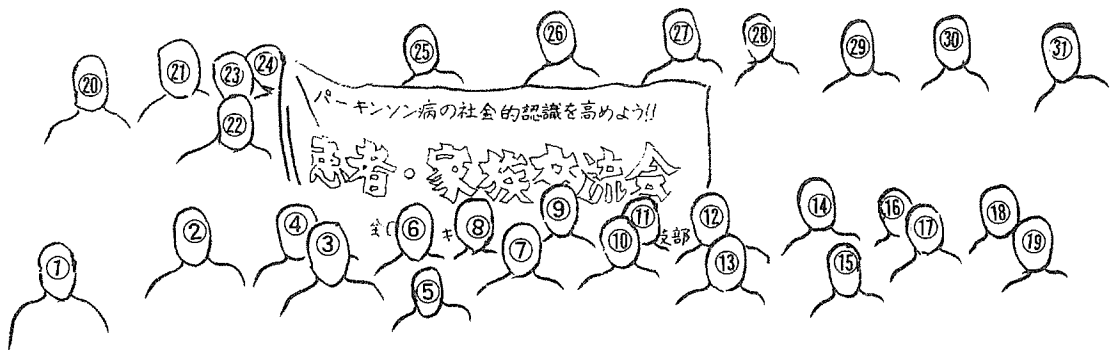
◎解散・帰宅

バスの出発時間に合わせ、植本事務局長から最後の解散の挨拶があり、二日間に亘る交流会を終了した。

来年の再会を約束して自家用車組と送迎バス組はそれぞれやみぞを後にした。



第26回患者・家族交流会 H23.10.23～24 [於：余暇活用センターやみぞ]



- | NO | 氏名 | NO | 氏名 | NO | 氏名 | NO | 氏名 | NO | 氏名 | NO | 氏名 |
|----|-------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|----|--------|
| ① | 清水 晴美 | ② | 松澤 昭雄 | ③ | 鹿志村 祥子 | ④ | 鹿志村 妙子 | ⑤ | 鹿志村 悟 | ⑥ | 荒井 富美子 |
| ⑦ | 植本 純代 | ⑧ | 秋山 とし子 | ⑨ | 小野 文江 | ⑩ | 植本 泰久 | ⑪ | 尾沼 友江 | ⑫ | 若山 弘 |
| ⑬ | 額賀 章好 | ⑭ | 廣 友子 | ⑮ | 小島 久子 | ⑯ | 篠塚 洋子 | ⑰ | 吉田 妙子 | ⑱ | 吉田 政幸 |
| ⑲ | 加藤 辰男 | ⑳ | 綿引 義男 | ㉑ | 西村 澄子 | ㉒ | 西村 雅夫 | ㉓ | 佐藤 恵美子 | ㉔ | 宮本 雅夫 |
| ㉕ | 石山 亨 | ㉖ | 寺門 正次 | ㉗ | 石川 正興 | ㉘ | 石川 房枝 | ㉙ | 荒井 為善 | ㉚ | 若山 富子 |
| ㉛ | 宮部 知克 | | | | | | | | | | |

パーキンソン病友の会茨城県支部 「秋の一泊患者・家族交流会」に参加して

T. K

平成23年8月に入会したT・Kと申します。今回の旅行では初参加の私に対しても親しくお付き合いをいただきありがとうございます。

依頼されましたので、感想を述べさせていただきます。

まず、第一に感じたのは皆さんが意外と「症状が表に出ている」ということでした。そのことは、将来の自分を見ているようで、恐ろしく、悲しくもありました。ところが後述しますように、これらを払拭するに十分な皆様の発言・行動に助けられた思いがします。

第二に驚かされたのが前の文章と重複しますが皆さんが実に「明るく、前向き」であるということです。さらには「共に戦おう」との姿勢です。このことは研修会での各自の隠すことのない発言とそれに対する経験者のアドバイス発言が物語っています。ここまでにされた役員之苦労が偲ばれます。さらには懇談会での私の疑問「薬を飲んでも変化がないが？」に対しても各自の経験を基にアドバイスをいただき、研修会同様に私にとっても役に立つことばかりでした。

第三に参加した意義についてですが、私にとっていろいろなことを知り得たことです。つまり、私が行っている「パーキンソン病対策」があながち間違いではないという確信（少し大げさかな）を得たことです。

つまり

①パーキンソン病は進行性の病気である。

②ならばいくらかでも進行を遅らせるべくリハビリは欠かしてはならない。

③同様に何事もポジティブでないといけないということです。

③については特にこの集まりにより、強いものになりました。

2日目の朝、私の旅先での恒例となっている朝の散歩に出かけましたが昨夜来の余韻のせいか気分のよい散歩となりました。散歩の後カチンカチンと鳴り響くグランドゴルフのバッティングの音に誘われて仲間に入れていただき汗を流したのも良い思い出となりました。

楽しく、そして有意義な二日間でした。参加された皆様、役員の方々ありがとうございました。また元気で会いましょう。

患者・家族交流会に参加して

つくば市 若山 弘

去る10月23～24日の2日間大子町の余暇センター「やみぞ」で開催されました患者・家族交流会に付添人若山富子(妻)とともに参加させていただきました。お世話になりました植本支部長はじめ役員の皆様方には心よりお礼を申し上げます。

午後の学習会においては、皆さんの話から患者一人一人が時間の経過や投薬に伴う変化等改めてパーキンソン病の難しさを知らされました。

特に注目した話題は、

①パーキンソン病で見られる非運動症状への注目です。最近かなり運動症状が良くなってきているので非運動症状も良くしなければ患者のQOL(生活の質)は上がらないということが認識されるようになってきている。「非運動症状」：便秘・痛み(腰痛等)・眠気・幻覚・不安、抑うつ・よだれ・多汗・だるい・忘れっぽい等

②iPS細胞(新型万能細胞)がパーキンソン病の治療に使われるようになるのは後5年とされています。この細胞を利用した新治療法が確立

されて我々患者に用いられるには今しばらくかかるかも知れませんが期待したいと思います。

③主治医とは常日頃良好なコミュニケーションによる関係を大切にし、患者としてどのような症状も勝手に判断せず、具体的な不都合はいつでも医師と相談・報告できることが大切です。

尚、会場にマイクがなかったのが残念でした。

ひと風呂浴びてからの交流会は、日頃節制しているアルコールも少し多めに酌み交わし、自己紹介かたがた話に花が咲き、のど自慢の皆さんのカラオケに酔いしれ、最後はビンゴ・ジャンケンによる賞品獲得にとあつという間の楽しい2時間でした。

私は所用により24日は朝早く失礼しましたがリング狩りも楽しい思い出になったことでしょう。皆さんありがとうございました。

来年も是非参加させてもらいたいと思っています。

秋の一泊患者・家族交流会に参加して

ひたちなか市 篠塚 洋子

パーキンソン病の発症から約3年半になります。医師からパーキンソン病と診断されるまで2年半かかりました。沢山の病気を抱えているから時間がかかったのかも知れません。

先生に「難病ですよ」といわれたときには目の前が真っ暗になりました。覚悟はしていたつもりですが、その時のショックの大きさは今までのどの病気よりも凄かったように思います。

毎日、毎日が不安と憂鬱でこのままではうつ病が再発する恐れがあると考え、二度と飼わないことに決めていた子猫を飼ってみたものの気持ちは晴れませんでした。

そんなある日、友から朗報があり、パーキンソン病に友の会があることを知り、植本さんにお電話で申し込み入会させていただきました。

交流会に参加することができ、勉強することができ本当に良かったと思っています。

病気に対する前向きな考えと、熱心に病気とに組み組んで、病気に負けないぞと頑張っているお姿を拝見して、た

だ尊敬するばかりです。

交流会の後に私も感化され動けな
いからだながら『やみぞ』のグランドゴルフに挑戦することができました。結果は友の半分しか飛びませんが、やろうと思う気持ちが大事だと気がつきました。

家に帰ったらリハビリ等をしよう
と胸膨らませて帰ってきました。

交流会の前日までは絶望の淵から
這い上がることができずにいた私ですが、交流会後の私は何でも挑戦してみようと希望が持てました。

希望と勇気を与えてくださいまし
て感謝して居ります。次回を楽しみに
しています。

有難うございました。



パーキンソン病友の会県南地区交流会(平成23年度第1回)報告

平成 23 年度第一回県南地区交流会を終えて

龍ヶ崎市 植本 純代

7月24日平成23年度第一回県南地区の交流会を行いました。参加者は39名の申込みがあり準備をしましたところ6名が欠席で、1名が会員外の方が参加してくださって結局34名でした。

午前10時15分～12時まで、飯田先生による「癒しの音楽」です。今回はピアノ演奏の時間が多くとても楽しめました。また先生のお話の中で、盲目の新進気鋭の辻井伸行さんの話が出て、飯田先生も目隠しをして「エリーゼのために」を見事に演奏してくれました。

最後にプレゼントも持ってきてくださって会員の皆様には楽しみが増えました。

12時から昼食です。ヨーカ堂の弁当です。また若山さんの奥様がとてもおいしいスイーツを持ってきてくださってそれも頂き、満足しました。

午後からは情報交換会です。その前に今まで写したことの無い記念撮

影をしました。都合があつて午前中で帰られた方もおられましたけれど、いいお顔で撮れました。

自己紹介をしながら、質問を投げかけたり、また経験してわかっていること等を話し合つて進行していきました。

終わり近くになりましたがいろいろな手続き、特定疾患取得、障害者手帳取得、障害者手帳の特典(一人で乗る場合、鉄道切符の200km以上が半額、手帳保持者と介護者が一緒であれば、どんなに短い距離でも一人分の金額で二人が乗れる、半額となる、航空機のチケットは25%OFF、2級以上の人はNHKの受信料は半額、医療費はマルフクで無料、美術館の入場料は割引されることもある、等)をお話しました。このような細かいこともとても大切であると考えています。

最後は皆さんで会場の整理と掃除を多くの方に手伝って頂き無事終わることができました。ありがとうございました。

パーキンソン病友の会 県南地区交流会へ参加して

利根町 和田 千恵子

久しぶりに県南地区交流会へ参加させて頂き、心の底から体の底から楽しめた一日でした。

普段あまり笑顔の無い自分の顔に変化を感じ、これが笑う事だと言う感覚を取り戻した様に思いました。

今までは途中からの参加しか出来なかったのですが、この日は薬の効きも良くて、これなら最初から行ってみようという事になり、主人にその旨を伝えると『良いですよ』と言う返事を貰い、まるで子供の頃の遠足へでも行く気分で、車に乗り込みました。

会場の馴染みセンターへ着くと、何時かお会いしたと思われる懐かしいお顔の人達がすでにお集まりでした。

何の抵抗もなく周囲の方々と病状のこと等を話している内に、気が付くと初めてお会いした方も加わって、まるで家族のように話している自分が居る事に気づきました。

前向きになれないことの多い自分がここまで自分自身を解放できるという事は、何なのかと自問自答して見ました。

それは同じ病気を患っている人達と、同じ苦しみや辛さと戦っていると言う安心感でした。水を得た魚の如く居心地の良い場所でした。

何時もは人様にお会いする場所に行くことは恥ずかしく思っていたのですが、薬の副作用であるジスキネジアを皆さんに披露出来る事が、どなたかの参考になりましたら幸いです。



飯田先生によるピアノ演奏



県南地区交流会参加者

牛久市よりお見えのピアニストの先生には、お土産のプレゼントまで用意して頂き大変失礼なことをお願いしましたのにも拘らず、快く笑ってお許し下さった事に感謝を致しています。

先生の生徒さんでもありました事をお聞きしています地元、龍ヶ崎の八木さんには突然のご指名にも拘わらず、ステキなお歌を聴かせて頂き

驚きと共にありがとうを伝えたいです。

皆さん大変な毎日を過ごされているはずなのに、一言も弱音をはかずに頑張っている事を知り、私もこれからの日々を出来る限り頑張らなくてはと思っています。

最後になりましたが役員の皆様のお骨折りに感謝いたします。この会の益々のご発展を願っております。

パーキンソン病友の会県南地区交流会に参加して

牛久市 吉田 妙子

平成23年度第1回県南地区交流会が7月24日(日)に開催され、34名が参加しました。

午前中は飯田先生の『楽しいトークと癒しの音楽』、昼食後の午後は『自己紹介・情報交換等皆様との話し合い』が行われました。

パーキンソン病の症状は十人十色と言われています。病歴を聞いてみると、人それぞれなのが良く分かります。交流会に何回か参加させて頂き、今回感じたことがあります。それは家族として介護している日々の

生活の中で、他の方はどうのように患者さんと接しているのか聞いてみたいと思いました。限られた時間での交流会ですから、昼食の時でも話し合いが出来たら良いのではないかと思います。

平成21年の会報82号で『第3回日立パーキンソン病交流会』の記事がありました。《(A)患者グループ》と《(B)介護グループ》の二つのグループに分けそれぞれに懇談を行っていました。これからもこのような企画も考えて頂ければと思います。

県央・県北地区合同交流会について

笠間市 綿引 義男

今年の3月に合同交流会を行う予定でしたが、東日本大震災で延期となり、今年度の7月3日に実施いたしました。午前中は患者・家族の交流会、午後は講師横沢健一先生（理学療法士）のリハビリについて講話と実技指導をいただきました。

出席者は40名で、自己紹介のあと今の症状を話していただきました。病歴は10年未満の方が多かった。毎回参加者の顔が替わっているのを感じます。病状が進行しているのかも知れません。話に出たことをいくつかあげてみます。

- 1、最も多く出たのは薬の効用でした。今服用している薬で果たしてよいのだろうか？薬をかえてみたい。
- 2、ちょっとしたことで転ぶことが多い。そのために骨折入院した。
- 3、手術が良いと聞けがなかなか決断できない。どんなものだろうか？
- 4、発症5年になるが、手のふるえが強くなっています。薬を3錠から4錠にしているがふるえは改善しない。
- 5、すくみ足になり、他の人の手を借りないと歩くことが出来ない。
- 6、声が小さくなり、人と会話が十分にできない。
- 7、パーキンソン病友の会に入って、会員の友達と話（勉強）ができてありがたい。
- 8、自分でリハビリする人が多くなった。大きな声を出す、絵を見る・描く、歌を歌う、山登り。他の人を見る、歩行10年など。

—昼食・休憩—

昼食・休憩の時間には役員の寺門さんのオカリナ演奏がありました。童謡などを聞かせていただき、みんなで合唱し盛り上がりました。午後

からは、講師横沢先生のリハビリについて講話と実技指導がありました。会員の皆様からの質問事項については、実技の中で指導いただきました。

- 1、尻から足にかけて、しびれるような痛みが強く、立ったり座ったり落ちつけない。
- 2、時々両手首から先が真っ赤になる。痛くはないがP病の一症状か。対処法は？
- 3、歩行障害に対する改善策を教えてください。
- 4、すくみ足に対するリハビリには？
- 5、少々のことでも苛立ち、自分を抑えきれない。平常心に戻す心のリハビリは？

出席者の竹内さんが模擬患者となって、いくつかの質問をまじえながら具体的にリハビリ指導をしていただきました。患者の皆さんは、このリハビリについては大変関心がある

ようですが、長く続けることが肝心と強調しておりました。症状の進行によっては、ご自身でリハビリのできない方もいるようでした。



患者・家族交流会(話し合い)



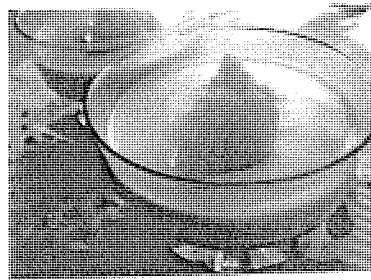
横沢先生のリハビリについての講話と実技指導I

お菓子のレシピ 《ヨーグルトゼリー》

つくば市 若山 富子

【材料（6人分）】

- ◎ ゼラチン 1.5袋
- ◎ 水 1/2カップ
- ◎ 砂糖 90g
- ◎ 生クリーム 1/2カップ
- ◎ 牛乳 1/2カップ
- ◎ ヨーグルト 250cc
- ◎ レモン汁 1/2個分



参考写真

【作り方】

- ①ゼラチンと水を合わせておく
- ②鍋に砂糖、生クリーム、牛乳を入れ、火にかけて沸騰前に火を切る。
この中に①を入れてよく混ぜる。
- ③冷めてからレモン汁を入れる。（イチゴ、メロン等を入れてもよい）
- ④ヨーグルトを入れる。
- ⑤型に流し、冷蔵庫でかためる。

リハビリ入院の話を聞いて

龍ヶ崎市 植本 純代

7月24日の県南地区交流会の席で、つくばみらい市の上山さんがリハビリ入院をされたとの話をお聞きしました。

リハビリ入院については、一昨年4月の総会後の講演会で、順天堂大学の林先生から、順天堂大ではリハビリ入院を行っており、入院をして薬の見直しとリハビリ治療を行っているという話をお聞きしておりました。

この話を聞いた時から、いいことだと思っておりましたので、今回、

上山さんがリハビリ入院をして大変良い結果が得られたとの事、嬉しく聞きました。

そこで、リハビリ入院とはどんなものかを会員の皆さんにも知って貰いたいと思い、今回の貴重な体験を会報で紹介して下さるよう上山さんをお願いしたところ、快く了解され、下記のとおりリハビリ入院の経緯と入院時の治療内容などをまとめご投稿いただきました。ぜひ参考にして下さい。

リハビリ入院をして

つくばみらい市 上山 圭子

1. 情報交換 会員でよかった

友の会に入会して5年になります。年に2回の集まりを楽しみにしています。日ごろの悩みや相談ごとを持ち込みます。飲み薬のこと、介護のこと、リハビリのこと、医師の

こと、などなどです。毎回新しい情報をいっぱい頂きます。

身体障害者の各種手続きなどで主治医の診断書が必要となりますが、上手な接し方など、出席者の皆さんのアドバイスが大変役に立ちます。

講師の先生（医師、音楽療法）のお話も楽しみです。

2. 良い先生にめぐりあえた

友の会で神経内科の先生のお話を聞く機会がありました。

順天堂大学神経内科林明人教授です。先生は毎週一回水曜日に午前は取手医師会病院、午後につくばセントラル病院（牛久）で外来診察をされています。

私は病院を訪ねてご指導を頂きました。病名は正しいか、飲んでいる薬は効いているのか、リハビリについてなどです。先生から河野豊先生を紹介していただきました。

3. 良い病院に入院 見違えるように回復した

茨城県立医療大学付属病院にリハビリ入院しました（6月6日～7月6日まで1ヶ月）。河野豊先生が主治医です。

4人部屋に入りましたが、病室は車椅子仕様でスペースが広く快適です。

全身状態の評価をしてリハビリで、基本動作、日常生活動作の改善を受けました。リハビリ療法は理学療法、作業療法、言語療法などを個

別に受けました。一ヶ月の入院で頷の前傾が元にもどった。姿勢が良くなった。歩行の改善など見違えるほど良くなりました。

病名は進行性核上性麻痺と判明。服用している内服薬は症状に合っていないので中止しました。

自宅の環境調査を受けて、玄関の手摺りの新設、浴室の手摺りの取り付けを行うなど、退院後安全で快適な自宅療養が出来るよう指導を受けとても良かった。

4. 病気は絶えず進行する 病気に負けない日常生活を

その後自宅で朝夕リハビリを続けています。

いつでも病気は今よりも重く、悪くなってしまう。誰も止めることは出来ません。しかし残りの人生から見ると今日は一番良い状態です。今出来ることは何でも楽しくやることにします。明日は出来なくなるかも知れないから。

5. 入院した病院

茨城県立医療大学付属病院

〒300-0331

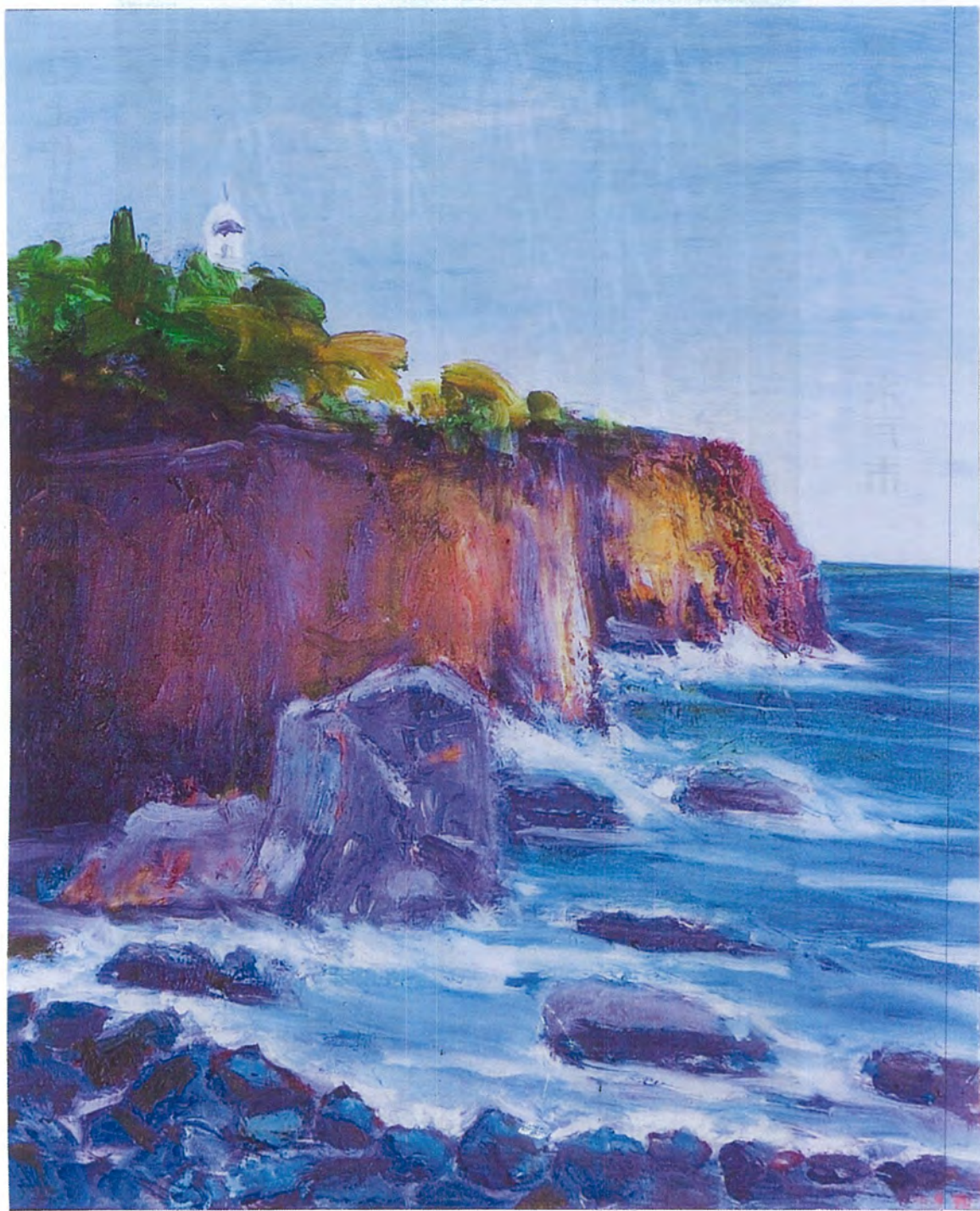
茨城県稲敷郡阿見町阿見 4733

Tel 029-888-9200

第2回誌上作品展

第2回誌上作品展を開催致します。今回は以下の10点の作品です。

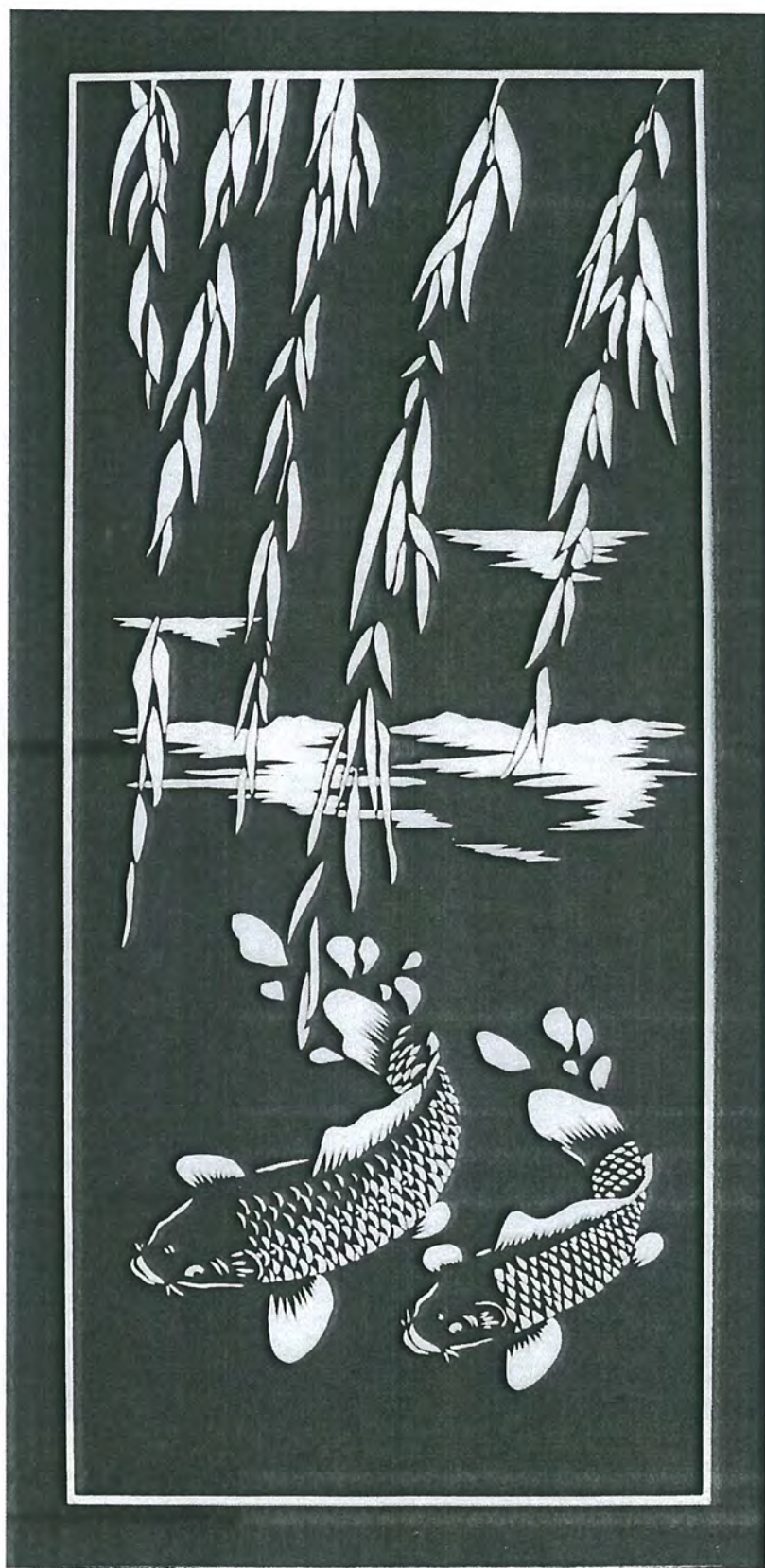
- | | | |
|-------------------------|--------------|--------|
| ◎油絵 | 『城ヶ崎海岸』 | 植本 泰久 |
| ◎切り絵 | 『柳の木の下の子』 | 宮部 知克 |
| ◎自由詩 | 『風（発症）』 | 匿名 |
| ◎写真 | 『秋雲・筑波山』 | 綿引 義男 |
| ◎ぬり絵 | 『ぶどう・菊』 | 窪谷 ふみ |
| ◎ちりめん細工 | 『四季』 | 若山 富子 |
| ◎短歌 | 『絆』 | 愛子 |
| ◎書 | 『希望』 | 鹿志村 悟 |
| ◎粘土細工とパソコンの
コラボレーション | 『ようこそわが家の庭へ』 | 松田 さつき |
| ◎切り絵・色紙 | 『孫悟空』 | 植本 純代 |



龍ヶ崎市

植本 泰久

誌上作品展 《切り絵》



『柳の下の鯉』

水戸市

宮部

知克

風 (発症)

発車のベルがなり

あなたは降りて来た

笑顔が消えた

おねがいよ、そんなに悲しくしないで

あなたは一人じゃな、わ

わだし、運も一諸よ

そーてあなたの所に

儂しの風が、ざとざと

ゆき、おちたりにと

祈っている人が、いる事を

忘れな、てほい、のです。



石路



笠間、佐伯山麓にて

秋の風
穂は黄金の
すずきかな 下村朝子
笠間市立図書館蔵

『秋雲』



北浦湖岸玉造町から

つくば嶺の峰より落つる芳雲川
恋すつもりて別とらりぬる 万葉

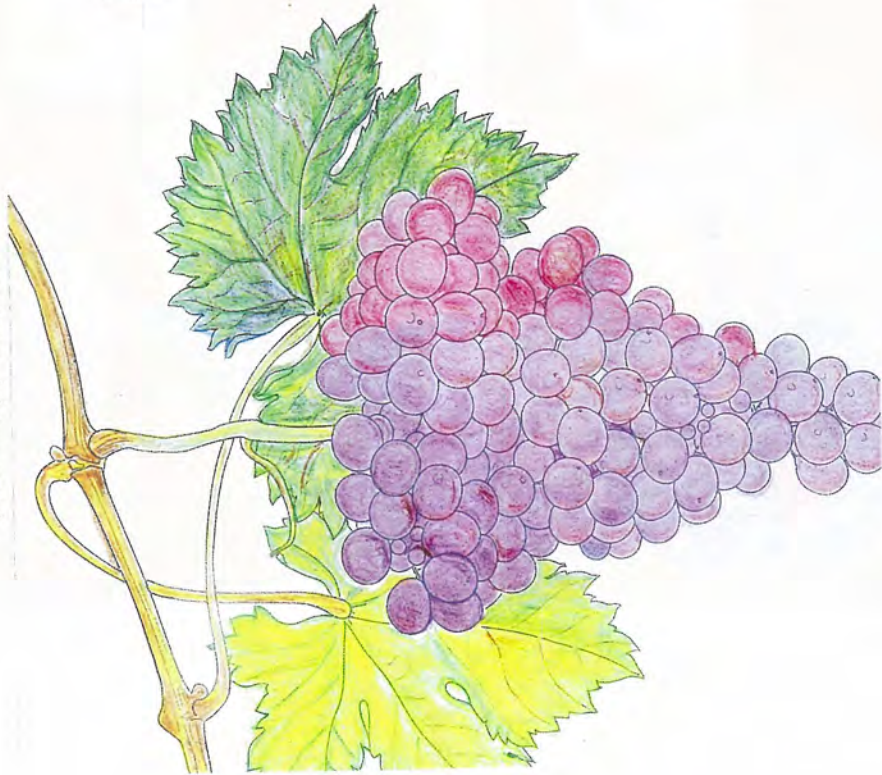
『筑波山』

笠間市

綿引 義男

誌上作品展

《大人のぬり絵》



『ぶどう』

潮来市



『菊』

窪谷 ふみ

誌上作品展

《ちりめん細工》

『四季』

つくば市 若山 富子



誌上作品展 《短歌》

『絆』

笠間市

愛子

- ・ 四照花やまぼうしの丘に避難の人等あり大震災のニユースを見つつ（大洗）
- ・ 暗闇の余震続くにおびえし家族うから寄り添ひ一部屋にをり
- ・ 井戸水を発電機にての給水に隣り人等は集り並ぶ
- ・ 観覧車より見渡せる海ゆたにかの日の津波そ知らぬふりす
- ・ 平常のままが良しとふ声を背に美容院へ急ぐ白髪染めむと
- ・ 「卯の花のほふ垣根」の卯の花と夫が採りきぬ六月朔日
- ・ 夕陽あびわが影長く散歩徑に伸びてゆつくり歩みてゆくも

誌上作品展

《書》



『希望』

水戸市

鹿志村

悟 (蛙友)

誌上作品展 《粘土細工とパソコンのコラボレーション》

庭のすみでいつも皆さんを見守ってくださっている粘土地藏様です。ア～メン



僕ら招き猫だったけれど疲れたから手を下ろしちゃったよ。あ～あごめんなさい

僕たちスライムワールドは、ソフトでは17万円もするので、買えないよ。だから粘土で作ったんだよ。



ワッハハハハ

何がおかしいのワッハハハハ



なぜかおいらだけ本物さ・・・なんて人形に混ぜちゃうんだよ

ジュナ、イングリッド、ココロの娘5歳です。無駄ほえばかりしている問題児です。

私たちは一年中笑うことを忘れないように年度初めに紙粘土で作られた、3羽の笑いウサギ、さあ皆さん、どんな年でしたか。ちょっと、気が早いかな？



ようこそ わが家の庭に

さつき

『ようこそ わが家の庭に』

取手市

松田 さつき

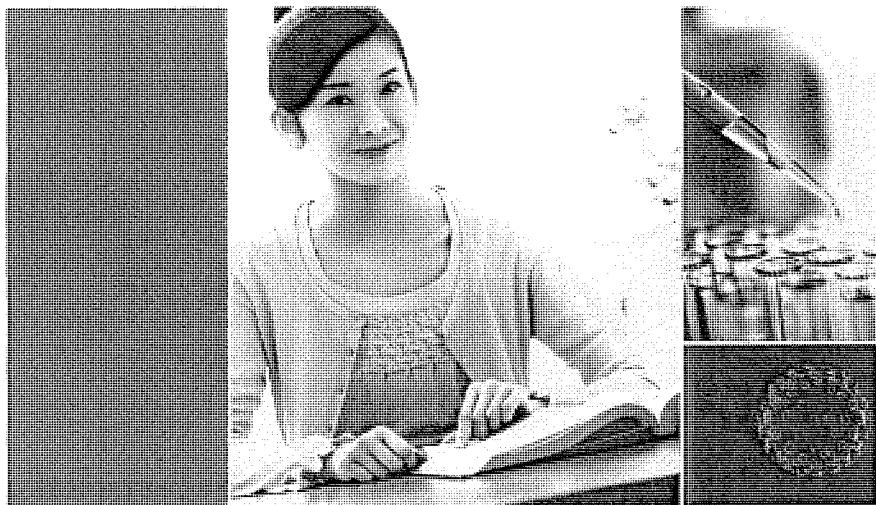


誌上作品展 ・ 《切り絵・色紙》

『孫悟空』

龍ヶ崎市

植本 純代



新薬で人々のいのちと健康に貢献します。

私たちノバルティス ファーマは、

分子標的薬や抗体医薬など最新の技術を生かして、

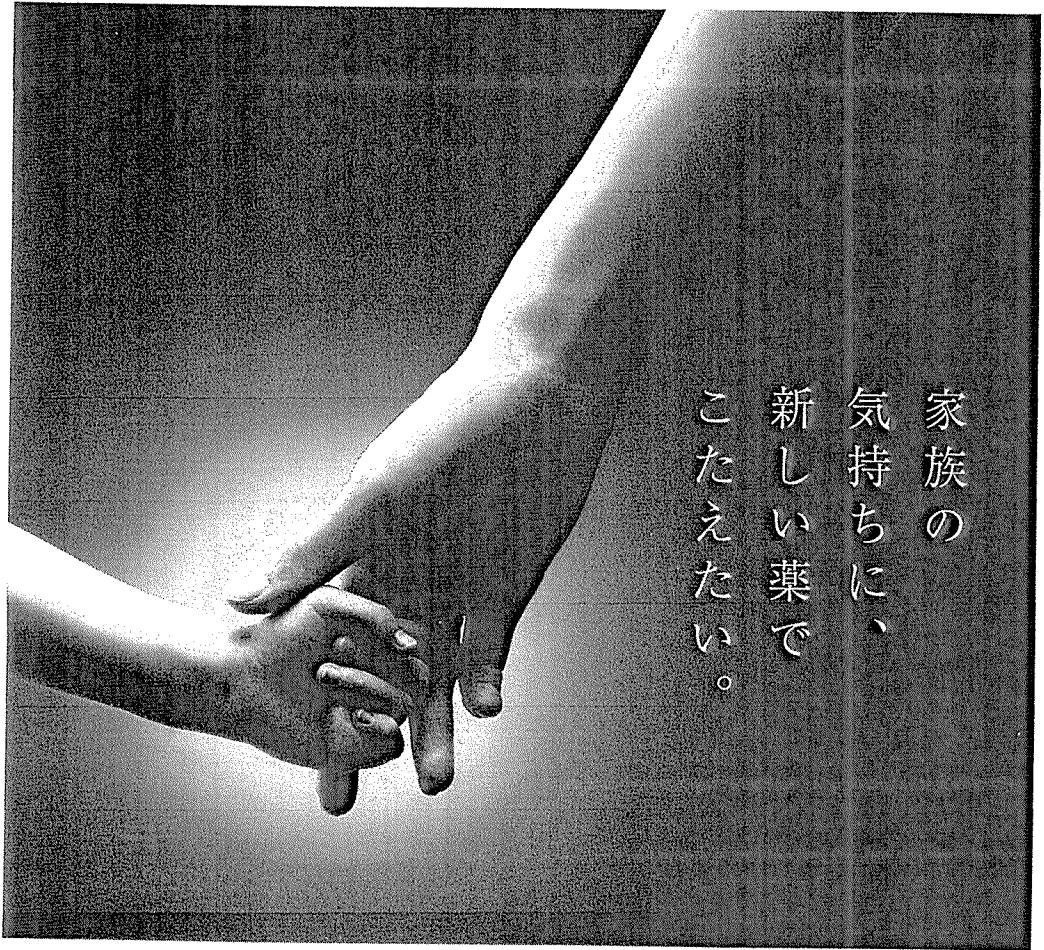
世界で140もの開発プロジェクトを進めています。

くすりを必要としている患者さんに、革新的な新薬を。

ノバルティス ファーマの新薬は、これからも進化を続けます。

 NOVARTIS

ノバルティス ファーマ株式会社
〒106-8618 東京都港区西麻布4丁目17番30号
<http://www.novartis.co.jp/>



家族の
気持ちに、
新しい薬で
こたえたい。

あなたの中から、気遣う。

あなたのこれからを、気遣う。

そんな家族の気持ちと同じ思いを胸に、

私たちは、新薬の研究に取り組んでいます。

必要な薬を、必要になるかもしれない薬を、

いち早く準備し、安心と共にお届けできること。

今も、ずっと先も、

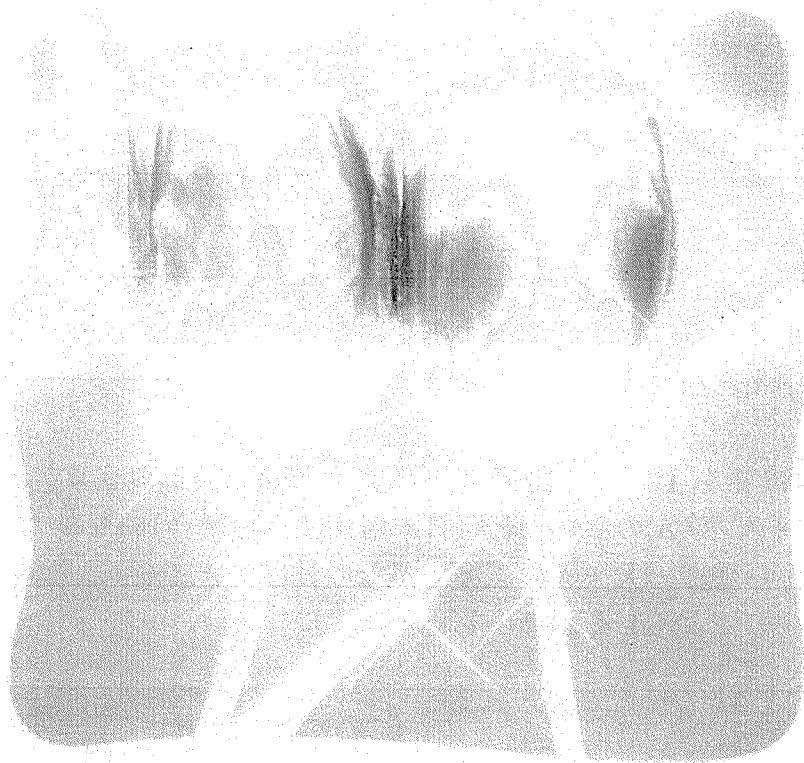
あなたとあなたの家族を支える力になる。

それが私たちの薬づくりです。



大日本住友製薬

www.ds-pharma.co.jp



患者さんのために
信頼と愛がいっぱいだった

藤本製薬グループ

エフピー

株式会社

【お問い合わせ先】

〒580-0011 大阪府松原市西大塚1丁目3番40号

TEL:0120-545-427 FAX:0120-728-093

URL:<http://www.fp-pharm.co.jp/>

平成23年5月作成

事務局からのお知らせ

10月23日から24日の『やみぞ』で行なわれた一泊患者・家族交流会は、参加者皆様のご協力のおかげで事故もなく無事に終わりました。

全国パーキンソン病友の会から東日本大震災の義援金(¥134,957円)を頂き、アンケート調査をして被害のあった方が68名おられました。

お一人様(¥3,000円)を送りました。不足分は支部から出しました。

関東地区の卓球大会を開催する事になっていましたけれど、諸般の事情より中止となりました。次の機会に期待ください。

平成23年も12月には国会請願署名と募金が行われます。JPDA(全国パーキンソン病友の会)・JPA(日本難病団体協議会)の2件です。毎年のことながら皆様一人一人のご協力がなければできません。封書にてお送りしますのでよろしくお願ひします。

全国パーキンソン病友の会
を通して東日本大震災の体験記
の募集がありました。

作品募集
12月9日(消印有効)

厚生労働省委託「患者サポート事業」(難病・長期慢性疾患患者)

3・11東日本大震災『あの日の記憶』を伝えよう

東日本大震災の体験手記、絵手紙、詩・俳句・川柳等を募集

■募集機関 平成23年10月5日～12月9日(必着)

■応募テーマ 災害や避難時、現在の状況や課題、そこから得た教訓、今後の要望など

- 応募対象者 東日本大震災で被災した難病患者・家族、患者会、支援に関わった医療・介護・福祉従事者の皆様
(原発事故に伴う避難や停電による被害も含みます。)
- 応募期間 平成 23 年 10 月 5 日 (水) ～ 12 月 9 日 (金)
- 応募内容
 - ① 手記部門 (目安として 400 字詰原稿 4 ～ 6 枚程度。
関連写真があれば同封してください。)
 - ② 絵手紙部門
 - ③ 詩・俳句・川柳部門 (様式自由)
- 作品の公表 体験記として冊子を作成致します。また関連イベントでの掲示や HP への掲載を予定しています。
- その他 原則お 1 人様 1 作品 (3 部門に応募の場合は各 1 作品ずつ) 審査委員会によって、各部門から最優秀賞 1 作品、優秀賞 2 作品を選定致します。応募された方の個人情報、弊社個人情報保護規定に基づき厳密に管理致します。`
- 応募方法 郵送・メールにてご提出ください。(以下を明記してください。様式自由。)

作品タイトル、お名前、(ふりがな)、年齢、性別、病名、
被災場所、連絡先 (住所、Tel/Fax、メールアドレス)
(※公表時に仮名・ペンネームを希望する場合はその旨を明記してください。)

■ 応募先・問い合わせ先

厚生労働省「患者サポート事業」事務局
 (株) 北海道二十一世紀総合研究所 (担当: 岩谷 (イワヤ) 河原、小山)
 〒 060-8640 北海道札幌市中央区大通西 3 丁目 1 1 番地
 Tel : 011-231-3053 Fax : 011-231-3143
 mail : support @ htri.co.jp

- 協力機関 一般社団法人日本難病・疾病団体協議会 (JPA)
 全国難病センター研究会 (事務局 NPO 法人難病支援ネット北海道)

1971年8月7日第3種郵便物認可（毎月6回）1の日・6の日
2011年12月3日発行SSKA増刊通巻第7443号

編集後記

茨城県支部の恒例行事の一つ「一泊患者・家族の交流会」が今年も無事終わった。今年は初参加の方が多かった反面、常連と思われた方の不参加も多く見られ、世代交代の感もする。不参加の理由はいろいろあるが、やはり病状の進行によることが大きな要因と思う。自分にもいつかその時がくることを覚悟しておかねばならない。

そう考えると、今、交流会でも講演会でも参加できるということは、如何に幸せなことであるかを喜び、そして少しでも長続きさせる努力が大事である。同時に、参加したくてもできない仲間が沢山いるということのを忘れてはならない。特に役員など行事を企画する者は、常に彼等に思いを馳せ、一人でも多くの仲間が参加できるような企画を心懸けねばならない。

編集者 全国パーキンソン病友の会茨城県支部
〒301-0856 龍ヶ崎市貝原塚町3552-6
TEL・FAX:0297-64-3546

発行者 特定非営利活動法人・障害者団体定期刊行物協会
〒157-0073 東京都世田谷区砧6丁目26-21
TEL:03-3416-1698 FAX:03-3416-3129
頒 価:500円